

# AstraZeneca PLC

## 2008年第1四半期業績

- 1株当中核利益は9%増の1.28ドル
- 第1四半期の売上は恒常為替レートベースで4%増の76億7,700万ドル
  - MedImmune参入による売上増が米国のToprol-XL™の売上減を上回りました。
  - 新興市場の売上は恒常為替レートベースで11%増と堅調でした。
- 実質ベースの業績の進捗は順調。1株当中核利益目標を、年初からの為替の影響を反映し、上方修正
  - 1株当中核利益の修正目標は4.45ドル~4.75ドルです。
- 本年予定した3つの新薬申請の最初の申請を提出
  - motavizumabの米国バイオ医薬品承認申請を1月に提出しました。
- 4月15日にNexium特許侵害に関するランバクシー社との和解契約を発表
  - 本契約により、増大する新薬パイプラインへの継続的な投資を可能にする透明性と安定性が向上しました。
  - 当社は知的財産保護を強力に推進します。

### ファイナンシャルサマリー

グループ	2008年 第1四半期 100万ドル	2007年 第1四半期 100万ドル	前年 同期比 %	恒常為替 %
売上高	7,677	6,966	+10	+4
報告ベース				
営業利益	2,257	2,170	+4	-5
税引き前利益	2,143	2,267	-5	-15
1株当たり利益	\$1.03**	\$1.02	+1	-9
中核				
営業利益	2,765	2,274	+21	+12
税引き前利益	2,651	2,371	+12	+2
1株当たり利益*	\$1.28	\$1.07	+19	+9

\*当社経営陣は当社の業績を理解していただく上で有益であると信じるIFRS（国際財務報告基準）とは異なる補足的な指標として1株当中核利益（Core EPS）も報告しています。2008年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。Core EPSおよび2007年Core EPSと報告ベースの1株当たり利益の調整については8ページをご覧ください。

\*\*報告ベースの2008年第1四半期1株当たり利益はEthyol™に関する無形資産の評価減（0.12ドル）を含みます。本製品はMedImmune買収の際に取得した製品で、進行中の特許訴訟が解決される前にSun Pharmaceutical Industries Ltd.がリスクのある状態で後発品を発売したことによります。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「第1四半期の堅調な業績により、当社は通年の財務目標達成に向けて順調に推移しています。また、2008年に計画されている3つの新薬承認申請の最初の申請であるmotavizumabのバイオ医薬品承認申請を1月に提出したことを発表するとともに、ランバクシー社に対するNexium™の特許侵害訴訟の和解契約を締結したことも発表しました。後者により、当社が増大する新薬パイプラインの開発に大規模な投資を継続していくことを可能にする透明性と安定性が向上しました。」

2008年4月24日 ロンドン発

## ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）

第1四半期の売上高は恒常為替レート（CER）ベースで4%増、報告ベースで10%増でした。米国の売上高は5%増でした。当期はMedImmune社連結による売上増が、米国市場でのToprol-XL™の売上減を上回りました。米国以外の売上高は4%増でした。西ヨーロッパでは1%減少したものの、既成市場の売上高は1%増でした。新興市場の売上高は、中国などのアジア市場の堅調な成長に牽引され、11%増加しました。

中核売上総利益率の改善、ならびに販売費及び一般管理費と研究開発費の継続的な効率化により、第1四半期中核営業利益は12%増の27億7,500万ドルでした。報告ベースの営業利益は、事業再編・相乗効果プログラム費用（1億1,700万ドル）、メルク社およびMedImmune社関連償却費（1億3,400万ドル）ならびにMedImmune社製抗がん剤Ethyol™の後発競合製品の「リスクある」発売に伴う無形資産の評価減（2億5,700万ドル）を反映し、前年比5%減の22億5,700万ドルでした。

1株当中核利益は、2007年第1四半期の1.07ドルに比べて2008年第1四半期は1.28ドルであり、CERベースで9%増でした。この増加は、中核営業利益の増加ならびに発行済株式総数の減少によるものですが、一部は正味支払利息の増加によって相殺されています。

## 研究開発の最新情報

第1四半期は、2008年に計画されている3つの新薬承認申請の最初の申請として、1月にmotavizumabの米国バイオ医薬品承認申請を提出しました。saxagliptinの申請も2008年半ばを目標に順調に進んでおり、来る米国糖尿病学会にて第III相臨床試験のデータを発表する予定です。なおZactima™の承認申請は第4四半期を予定しています。

セロクエルXR™の大規模なライフサイクルマネジメントプログラムもほぼ完了に近づき、2008年には多数の承認申請を予定しています。第1四半期の初めに、欧米の規制当局に双極性躁病および双極性うつ病の治療薬としてセロクエルXR™を申請することを発表しました。大うつ病性障害（MDD）の治療については、2月29日に米国規制当局に申請を提出しました。欧州でのMDDの申請ならびに欧米での全般性不安障害（GAD）の申請は、2008年後半に予定しています。来月初めの米国精神科学会では、MDDおよびGADの承認申請の根拠となる臨床データを発表します。

当社は、3月31日に、独立データモニタリング委員会とJUPITER運営委員会の3月29日の会議で出された勧告にもとづき、クレストール™ JUPITER臨床試験を中止することを発表しました。クレストール™投与患者の心血管系疾患罹患率および死亡率がプラセボよりも低いことを示す明確な証拠があるため、この試験の早期中止を決定しました。

JUPITER試験チームは、この大規模多施設共同試験の終了作業を開始しています。15,000名以上の被験者が26カ国の1,200を超える試験実施施設で、治験責任医師から最終評価を受ける予定です。これらのデータの症例報告書は8万ページに及ぶと予想されます。2008年第4四半期にデータの解析を完了する予定です。

## 生産性の向上

当社は年末までに、年間14億ドルというプログラム全体のコスト削減目標の3分の2を達成する予定であり、2010年までに目標全額の達成を目指しています。

このプログラムの一貫として、当社は2007年に欧州の多くの営業・マーケティング組織の大幅な再編を実施しました。これにより、当社の西ヨーロッパの大規模な子会社数社の営業組織は縮小されたものの、売上高は横ばいを維持しています。

研究開発部門は、現在、当社の臨床開発部門全体に対し一元化されたデータ・マネジメントサービスを提供するCognizantとの契約の実施を積極的に進めています。この契約は、同種の契約としては医薬品業界で最大規模です。これによって、スケールメリットと費用削減がもたらされ、研究開発部門が生産性の向上と効率化を果たす一助となることが期待されます。

全社的な事業再編・相乗効果プログラム関連費用として、第1四半期にさらに1億1,700万ドルを計上しており、同プログラムの開始以降の累積費用は10億8,300万ドルになりました。

## 今後の見通し

第1四半期の実質ベースの業績の評価と第2四半期以降の展望にもとづき、2008年も年間目標の達成に向かって順調に推移すると考えられます。1株当中核利益の目標は、当初目標設定の基礎となった予想に比べて、第1四半期に為替差益が得られたことから、4.45～4.75ドルに上方修正しました。

**注意：**当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確実要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるToprol-XL<sup>TM</sup>の後発品の売上伸び率、米国PPI市場の後発品の売上伸び率、既存製品の成長（特に、クレストール<sup>TM</sup>、Nexium<sup>TM</sup>、セロクエル<sup>TM</sup>、Symbicort<sup>TM</sup>、アリミデックス<sup>TM</sup>）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確実要素と考えられます。これらやその他のリスクや不確実要素については、2007年アニュアルレポートForm20 - Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

## 売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)。

### 消化器

	第1四半期		CER %
	2008	2007	
Nexium™	1,238	1,308	-9
Losec™ / Prilosec™ (オメプラール)	252	279	-16
合計	1,510	1,607	-10

- Nexium™の米国の第1四半期の売上高は、前年比15%減の7億3,600万ドルでした。販売数量は前年第1四半期と比べてほとんど変わりませんでした。小売部門の需要が基本的に横ばいである一方、小売以外の販売数量の増加は当期の流通在庫減によって相殺されました。当四半期の正味価格は2007年第4四半期をわずかに下回っており、2007年第1四半期に対する価格変動は前年に発生した価格引き下げの延期期間を反映しています。
- Nexium™の米国以外の売上高は、カナダと新興市場での売上高の伸びが西ヨーロッパでの売上減を上回り、1%増でした
- 全世界の2008年のNexium™売上高は、一桁台半ばの減少を予想しています。
- Prilosec™の米国の第1四半期の売上高は13%減でした。米国以外のLosec™の売上高は、日本および中国で僅かな伸びを示したものの、17%減でした。

### 循環器

	第1四半期		CER %
	2008	2007	
Crestor™	772	628	+16
Seloken™ / Toprol-XL™	190	444	-60
Atacand™	346	296	+7
Plendil™	66	65	-6
ゼストリル™	59	80	-33
合計	1,571	1,653	-11

- Crestor™の米国の第1四半期売上高は、前年比3%増の3億5,300万ドルでした。米国のスタチン市場の総処方量に占めるCrestor™のシェアは3月時点で8.75%に増加しました。Crestor™は第1四半期に市場シェアを拡大した唯一のスタチン製剤です。2007年11月にアテローム性動脈硬化症に対する新しい適応が承認されて以来、他のスタチン製剤からの切り換えの増加に加えて、新規患者におけるCrestor™のシェアが拡大しました。
- 米国以外の市場でのCrestor™の売上高が米国の売上高を超えました。米国以外の売上高は32%増の4億1,900万ドルで、西ヨーロッパの売上高は11%増、日本のCrestor™の売上高は180%増加し、日本のスタチン市場に占めるCrestor™の数量ベースのシェアは13.2%でした。
- Parの認可後発品を含むToprol-XL™製品群の米国の第1四半期の売上高は6,400万ドルで、81%減でした。第1四半期処方量の87%を後発品が占めました。
- Seloken™の米国以外の売上高は変わらず、新興市場の成長が既成市場の不振を相殺しています。
- Atacand™の第1四半期の売上高は米国で5%減少しました。米国以外の売上高は主に西ヨーロッパでの成長により、10%増でした。

## 呼吸器および炎症

	第1四半期		CER %
	2008	2007	
Symbicort™	471	354	+21
パルミコート™	411	401	-1
Rhinocort™	80	92	-16
Oxis™	17	23	-35
アコレート™	18	19	-5
合計	1,040	931	+5

- Symbicort™の米国の第1四半期売上高は4,400万ドルでした。専門医によるSymbicort™の採用は着実に増加しており、発売以来、Symbicort™の対象処方医師であるアレルギー専門医の80%超、肺専門医の70%超が本製品を処方しています。プライマリケア医の製品試用率も29%超に増加しました。定量合剤の新規処方量に占めるSymbicort™のシェアは4月11日終了週に7.8%でした。新規に合剤の使用を開始する患者の市場のシェアは15%超に増大しました。
- COPD治療および小児の使用に関するSymbicort™の米国承認申請は2008年第2四半期を予定しています。
- Symbicort™の米国以外の第1四半期売上高は9%増の4億2,700万ドルで、この増加の半分以上は西ヨーロッパの好調な業績によるものです。
- パルミコート™の米国の第1四半期売上高は2%増でした。2007年第1四半期には、パルミコート™Flexhaler™ドライパウダー吸入器（パルミコート™タービューヘイラーの代替品）の初期在庫が発生したため、当期の報告ベースの売上高はマイナス成長となりました。当期は呼吸器疾患の比較的軽い季節でありながら、パルミコート™吸入液の売上高は11%増でした。
- 米国以外のパルミコート™の第1四半期売上高は6%減でした。

## オンコロジー

	第1四半期		CER %
	2008	2007	
アリミデックス™	430	401	+2
カソデックス™	316	310	-5
ゾラデックス™	255	249	-6
イレッサ™	58	52	+4
Faslodex™	56	49	+8
ノルバデックス™	18	19	-16
Ethyol™*	14	-	n/m
合計	1,165	1,096	-1

\*このMedImmune製品の売上高は、2007年6月1日からアストラゼネカに連結計上しており、それ以前の売上高は含まれない

- アリミデックス™の米国の第1四半期売上高は13%増で、1億8,300万ドルでした。第1四半期のアリミデックス™の総処方量は2%増でした。
- アリミデックス™の米国以外の売上高は6%減で、2億4,700万ドルでした。これはアロマターゼ阻害剤市場の成長の鈍化と市場占有率のわずかな低下が西ヨーロッパの売上に反映されたためです。
- カソデックス™の第1四半期売上高は米国で10%減、米国以外で4%減でした。
- イレッサ™の第1四半期売上高は、主に中国などのアジア新興市場での成長により、4%増加しました。日本での売上高は4%減でした。
- Faslodex™の米国の第1四半期売上高は2,500万ドルで、2007年第1四半期から変化はありませんでした。米国以外の売上高は17%増で、3,100万ドルでした。

- Ethylol™の米国の第1四半期売上高は1,400万ドルでした。3月31日にSun Pharmaceutical Industries社は、係争中の特許侵害訴訟の判決を待たずに、アミフォスチン後発品の「リスクある」販売を開始しました。これを受けて、MedImmune社はアミフォスチンの認可後発品を販売するため、Bedford Pharmaceuticalsとの代理販売契約を締結しました。競合後発品の市場参入により、第1四半期に無形資産評価減を計上しました。

## ニューロサイエンス

	第1四半期		CER %
	2008	2007	
セロクエル™	1,050	923	+10
ゾーミッグ™	107	107	-7
合計	1,378	1,227	+7

- セロクエル™の米国の売上高は7%増で、7億200万ドルでした。第1四半期のセロクエル™の総処方量は8%増でしたが、その25%はセロクエルXR™によるものです。第1四半期の米国抗精神病薬市場の処方増の半分以上をセロクエル™処方の増加が占めました。
- セロクエル™の米国以外の第1四半期売上高は17%増で、3億4,800万ドルでした。セロクエルXR™の発売在庫を含むドイツの売上増に牽引され、西ヨーロッパ全体での売上高は17%増でした。
- 第1四半期のゾーミッグ™の売上高は米国で6%減、米国以外で7%減でした。

## 感染症・その他

	第1四半期		CER %
	2008	2007	
Synagis™*	519	-	n/m
Merrem™	213	178	+12
FluMist™*	-	-	n/m
合計	787	252	+206

\*これらMedImmune製品の売上高は2007年6月1日からアストラゼネカに連結計上しており、それ以前の売上高は含まれない。

- Synagis™の第1四半期の売上高は合計で5億1,900万ドルでした。売上は米国で4億5,600万ドル、米国以外で6,300万ドルでした。Synagis™の売上高は、比較できる前年の売上高がアストラゼネカの決算書にはないため、試算ベースでみると、前年同期の2%増でした。

## 地域別売上

	第1四半期		CER %
	2008	2007	
北米	3,723	3,488	+5
米国	3,401	3,234	+5
ROWの既成市場*	2,973	2,664	+1
ROWの新興市場	981	814	+11

\*ROW（その他）の既成市場には西ヨーロッパ諸国（フランス、英国、ドイツ、イタリア、スウェーデンなど）、日本、オーストラリアおよびニュージーランドが含まれる。

- 米国の第1四半期の売上高は5%増でした。MedImmune社参入による売上増が、Toprol-XL™の売上減を上回りました。当期は一部の在庫減により、報告ベースの売上増を上回る実質需要の増加がありました。主要製品では、Symbicort™、クレストール™、アリミデックス™およびセロクエル™の売上増が、Nexium™の売上減によって相殺されました。

- その他の既成市場の売上高は1%増でした。西ヨーロッパでは、セロクエル™、Symbicort™およびクレストール™の売上高は伸びたものの、 Losec™およびNexium™の売上減によって相殺され、全体の売上高は1%減でした。日本では4月に施行された2年に1回の薬価引き下げ前に卸売業者が購入を控えたため、売上高は4%増でした。オーストラリアでは、新たに発売したクレストール™の順調な滑り出しにより、売上高は29%増でした。
- 新興市場の売上高は11%増で、米国を除く当社全体の売上増の3分の2を占めました。アジアの新興市場（中国を含む）の売上高は22%増、南米の売上高は11%増でした。

## 営業レビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

### 第1四半期

	報告ベース 2008	事業再編・ 相乗効果 プログラム 費用	MedImmune社 取得に伴う償却 費	Ethyol™ 評価損	メルク社 関連償却費	中核ベース 2008	中核ベース 2007	前年 同期比 %	CER %
売上高	7,677	-	-	-	-	7,677	6,966	10	4
売上原価	(1,502)	32	-	-	-	(1,470)	(1,404)		
売上総利益	6,175	32	-	-	-	6,207	5,562	12	5
売上高の%	80.4%					80.9%	79.8%	+1.1	+0.6
物流費	(66)	-	-	-	-	(66)	(61)	8	2
売上高の%	0.9%					0.9%	0.9%	-	-
研究開発費	(1,236)	54	-	-	-	(1,182)	(1,170)	1	-2
売上高の%	16.1%					15.4%	16.8%	+1.4	+1.1
販売費及び一般管理 費	(2,737)	31	79	257	25	(2,345)	(2,195)	7	2
売上高の%	35.7%					30.6%	31.5%	+0.9	+0.7
その他の営業収入	121	-	30	-	-	151	138	9	8
売上高の%	1.6%					2.0%	2.0%	-	+0.1
営業利益	2,257	117	109	257	25	2,765	2,274	21	12
売上高の%	29.4%					36.0%	32.6%	+3.4	+2.5
正味利息（支払）/ 受取	(114)	-	-	-	-	(114)	97		
税引き前利益	2,143	117	109	257	25	2,651	2,371	12	2
法人税等	(638)	(35)	(32)	(77)	-	(782)	(728)		
税引き後利益	1,505	82	77	180	25	1,869	1,643	14	4
少数株主持分	(2)	-	-	-	-	(2)	(4)		
当期純利益	1,503	82	77	180	25	1,867	1,639	14	4
加重平均株式数	1,457	1,457	1,457	1,457	1,457	1,457	1,527		
1株当たり利益	1.03	0.06	0.05	0.12	0.02	1.28	1.07	19	9

2007年の報告ベースから中核ベース財務指標の四半期ごとの調整については、注3(英文リリース16ページ)を参照のこと。

売上高は報告ベースで10%増、恒常為替レート（CER）ベースで4%増でした。為替変動により売上高は6%増でした。

第1四半期中核ベースの売上総利益率は、前年比0.6ポイント増の80.9%でした。これは、メルク社への支払い額の減少（1.2ポイント）および継続的な効率化と有利な製品構成（0.8ポイント）がプラス要因となりましたが、主に2008年第1四半期のSynagis™の売上連結によるライセンス料の増加（1.4ポイント）がマイナスに作用した結果です。

第1四半期中核ベースの研究開発費は前年比2%減の11億8,200万ドルでした。2007年第1四半期には、AtheroGenicsおよびAvanirとの事業提携に関連する無形資産の評価損を計上しましたが、これを控除すると、MedImmune社の研究開発費が継続的な効率化によって相殺され、当期の中核ベース研究開発費は4%増でした。当社は引き続き研究開発プロジェクトおよび生産性向上の取り組みにおいて順調に進捗しています。

中核ベースの販売費及び一般管理費は前年同期比2%増の23億4,500万ドルでした。MedImmune社連結による経費増が、当社の業務効率化と生産性向上の取り組みによる経費減を上回りました。MedImmune社分を控除すると、中核ベースの販売費及び一般管理費は前年同期比2%減でした。

中核ベースのその他の収入は1億5,100万ドルで、2007年第1四半期よりも1,300万ドル増加しました。MedImmune社連結による増加が、一時所得およびライセンス収入の減少によって一部相殺されました。MedImmune社のライセンス収入に伴う無形資産関連償却費の表示を販売費及び一般管理費からその他の収入に



変更しました。その結果、中核ベースのその他の収入は前年とほぼ同じですが、この償却費により、報告ベースのその他の収入は2007年を下回ると予想されます。

中核ベースの営業利益は27億6,500万ドルであり、CERベースで12%増、報告ベースで21%増でした。為替変動により、営業利益は9%増加しました。前年と比較して、ドルはユーロに対して13%弱く、売上高は伸びましたが、スウェーデンクローナ（11%）および英ポンド（1%）に対しても弱く、費用も増加しました。CERベースでの中核ベース営業利益率は、売上総利益率の改善ならびに販売費及び一般管理費と研究開発費の効率化により、2.5ポイント上昇し、売上高の36.0%となりました。

第1四半期の1株当たり中核利益は1.28ドルであり、CERベースで9%増でした。これは、中核ベース営業利益の増加と、発行済株式数の減少による利益が、正味支払利息の増加によって一部相殺されたためです。報告ベースでは19%増でした。

報告ベースの営業利益は、事業再編・相乗効果プログラム費用（1億1,700万ドル）、MedImmune社関連償却費（1億900万ドル）ならびにEthyol<sup>TM</sup>後発競合製品の「リスクある」発売による無形資産の評価損（2億5,700万ドル）の影響を反映して、前年同期比5%減の22億5,700万ドルでした。報告ベースの1株当たり利益は1.03ドルでした。

### 受取利息と支払利息

2007年第1四半期は受取利息が9,700万ドルであったのに対して、本年第1四半期の正味支払利息は1億1,400万ドルでした。この減少は主にMedImmune社買収のための借入れ利息によるものです。

### 税金

実効税率は前年同期の31.0%に対して、当四半期は29.8%でした。通年の税率は、2007年と同じく約29.5%と予想されます。

### キャッシュフロー

2008年第1四半期の営業活動による現金収入は、前年同期21億8,700万ドルに対して、23億9,100万ドルでした。この2億400万ドルの増加は、主に償却費・評価損計上前の営業利益の増加額4億1,900万ドルによるものですが、支払利息の増加額2億5,600万ドルにより一部相殺されました。

2008年第1四半期の投資活動による正味現金支出は、前年同期6億1,600万ドルに対して、29億3,700万ドルでした。これは、主にメルク社への26億3,000万ドルの支払い（注6 - 英文リリース21ページ - を参照）によるものですが、一部新規社外提携取引関連の支出減ならびに短期投資および定期預金の減少により相殺されました。

株主への現金還元額は、2007年からの2回目の中間配当により、20億700万ドルでした。

### 投資

注6(英文リリース21ページ)に記載の通り、3月17日に当社はメルク社との契約条項にもとづき約26億ドルの支払いを行いました。これらは、将来発生しうる支払額の軽減ならびに特定の治療領域での資源と製品を全面的に活用する能力によって得られる利益を反映するため、無形資産として計上しました。その他当四半期に発生した重要な投資はありませんでした。

### 負債と資本の構造

2008年3月31日現在、有利子負債総額（ローン、短期借入金および当座借越を含む）は150億200万ドル（12月31日現在：151億5,600万ドル）であり、このうち111億1,600万ドルは返済期限が1年超の負債（12月31日現在：108億7,600万ドル）です。正味有利子負債額は、前述の多額の現金支出により、12月31日から26億4,000万ドル増加し、117億5,200万ドルとなりました。

## 株の買い戻し

第1四半期に株式の買い戻しはありませんでした。

2008年3月31日現在の発行済株式総数は14億5,700万株です。

取締役会の配当方針および全体的な財務戦略は、強固な投資格付けの信用評価を維持しながら、当社の事業、株主、債権者3者の利益のバランスを保つことです。取締役会は、事業の必要性に応じて、2008年には10億ドル程度の株の買い戻しを予想しています。

## カレンダー

---

2008年7月31日	2008年第2四半期・上半期業績発表
2008年10月30日	2008年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者  
David Brennan